

第2回 最上川下流、赤川大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

日 時：平成28年8月25日（木）13：30～15：00

場 所：酒田河川国道事務所2階大会議室

協議概要

- (1) 平成28年台風9号、10号、11号の概要について説明。
⇒鶴岡市長、三川町長より被害等について発言。
- (2) 幹事会の報告について
⇒異議なし。
- (3) 「最上川下流・赤川流域の取組方針（案）」について説明。
⇒その後、委員が意見も含め発言。

以下は、主な発言内容（発言順）

■（1）台風9号関連についての主な報告

～鶴岡市長～

8月22日夜半からの降雨において、藤島地域の京田川2箇所では越水が発生し、床上浸水が1世帯、床下浸水が22世帯、その他地域では羽黒地域で側溝からの越水で付近の住家が床下浸水7世帯、市道、農道、林道、農地災害等で併せるとまだ、全ての報告は上がってきていないが被害箇所としては30箇所近くになると思われる。幸いにも人的被害は無く安堵している。全国的にも記録的豪雨が至るところで発生しているので大規模災害になる可能性が高い。大災害復旧等に関しては、市ではノウハウを持っていないので、国、県から適切なアドバイスをいただかなければならない。今後とも支援等をお願いしたい。

～三川町長～

今回の台風に関しては、酒田河川国道事務所より本町に排水ポンプ車を出動していただいた。今までも何回か出動していただいたが、今回も被害を最小限に抑えることができ、三川町では水田で30アール程度のかん水で済んだ。今回の大雨は、前回の大雨とは違って台風通過後の降雨で、降雨時間が4時間と限られた時間であった。県管理河川の下流域で、今までもタイムラインで情報等を確認しながら対応をしたところであるが、実際に巡視してみたところ、県管理河川の流木が多く量が流下していた。今までも、支障木の伐採をやっていただいた。効果は大きいと思われるが、上流部と下流部の対策をしっかり行う必要があると感じている。今後とも、色々な面でご指導をいただきたい。

■（３）「最上川下流・赤川流域の取組方針（案）」について

以下は、主な発言内容（発言順）

～鶴岡市長～

今回の８月２２日の大雨も含めて、１つは、平成２５年７月１８日の大雨のときもあったが、河川に流入する各水路等の水門の閉鎖するタイミングが重要だと感じている。青龍寺川が赤川に流入するところの水門が閉め切られた関係でその上流部で浸水することがあった。タイミングについては、河川管理者と市と密接な情報交換と連携をしながらやっけて行かないと、地元流域に情報提供することが出来なと感じている。もう一つは、国直轄、県、市町村も含めて、河川管理に係わる公共事業予算が年々縮小されてきている関係から河川敷内における土砂堆積あるいは支障木の伐採等、河川浚渫が遅れてきていると感じている。今回の京田川についても、その土砂堆積が越水の原因になったのではないかと感じている。これについては、各の河川管理者が現況をしっかりと見ながら対応していただければと思うのでよろしくをお願いしたい。

～酒田市長～

酒田市においては、市役所内部の関係機関とでタイムラインに沿った防災訓練が実際なかなか行われていない状況である。早急に訓練を実施し我々も感覚を磨く必要があるし、住民の皆さんからも身をもって訓練してもらうことが必要だと感じている。酒田市の中ではこのことが一番遅れているところなのでこの対策に力を入れていくところであり、各関係機関からはご指導をいただきたい。もう一つは、最上川での支障木で最近では中州での木の繁茂が大きくなっているが、野鳥の保護の観点では必要だと思われるが、洪水対策の観点からすると、最上川の排水能力低下を招き、危険度増しているのではないか。その観点からも、中州エリアを中心とした流路の確保あるいは、支障木の伐採をお願いしたい。

～三川町長～

三川町としては、住民に対してのソフト面での周知、あるいは防災、減災に対する意識を持ってもらうような取り組みを実施していかなければと感じている。赤川中流域に関しては、河道掘削によって治水安全度、流下能力の改善となったので、これからは、最上川、赤川の直轄区間と支流との調整をもう少し進めることが出来ないかと思っている。また、月山ダム、気象庁からも色々情報を頂いているので、特に気象情報で雨雲の５時間先まで予測情報があるので、大雨に対する予測も出来てきているので今後とも色々な情報提供をお願いしたい。

～庄内町長～

庄内町としては、最上川、京田川は酒田河国で、立谷沢川は新庄河川になるわけであるが、我々は2つを見ていく事になる。今回の台風9号でも、土砂災害は新庄河川で、河川は酒田河川国道事務所と2つにわかれて、町としても大変だと感じている。防災ラジオでは土砂災害について、個人的な場所によって特定されるのでそういったところはラジオで対応していかなければならないと思っている。あとは、避難準備を出すか出さないかという判断が難しかった訳で、判断をする際にこれから先の雨の予報をいろんな角度から取得していくことが重要だと思った。NHKのデータ放送があるが大変参考になった。データ放送は国交省とリアルタイムでデータ連動していれば、一般者でも避難準備等がしやすいと感じた。日常的に住民が自分の住んでいる場所がどういったリスクを抱えているかを提供しなければいけない。やはり、自分の身は自分で守ると言ったところを徹底していかなければならない。今は、どこでどういうことが起きるか分からないし、色々な災害が起こる可能性があるので、自分のところは安全だと思わないようにしておくことが重要だと思っている。

～気象台～

情報の改善では、市町村や防災機関等の意見を受けて、誰にでも一目で理解・判断しやすい形式への改善を目指している。来年度は、浸水や洪水の危険度について、注警報を補足する情報としてメッシュ情報（赤が危険等）を、注警報の注意警戒時間帯を解説する時系列図（赤が警戒等）を提供予定である。

・普及啓発では、山形大学での防災教育講座（将来先生になる学生の養成）の講義や自治体の防災リーダー会議などへの講師派遣を実施している。このほか公共機関等への出前講座もあわせて実施しており、去年は火山のテーマが多かったが、今年は地震・津波のテーマが多い。大雨は定常的なテーマとなっている。

追加情報として、台風10号のような経路をたどる台風は非常に希である。現時点では予報円は東京方面だが予報円が大きいので東北も含まれる。日本の南海上から北上してくる台風は大雨の危険性が高いので気象台では警戒している。最新の台風情報や気象情報を参照願いたい。

～県河川課～

今回の台風のように、4時間、5時間での大雨は中小河川にとっては影響が出やすい。短時間で、低コストで効果が出やすい支障木や堆積土砂の撤去は引き続き行っていきたいと思っている。ソフト対策では、赤川で浸水想定区域図の公表があったが、県においても主要70河川で想定最大降雨で見直しをしていきたいと思っている。その際にタイムラインも見直ししていきますので市町の皆様にもご協力をお願いしたい。量水標についても、目に見えて水位が分かるものなので引き続き実施していきたい。山形県河川砂防システムを実施しているが、今は配信時間間隔

が10分になっているが、今後5分間隔にしようとしている。出来るだけ早くきめ細やかな情報を提供していこうと考えている。

～庄内総合支庁総務企画部長～

庄内地域は自主防災組織の組織が非常に高い。県内でも群を抜いて高い。組織率が高いわけではなく、組織がいかに効果的によく動けるか、リーダー研修も含めてしっかりやっていきたいと思う。昨年からタイムラインも県の方で導入している。聞くとところによると、市町でもタイムラインがあるようで、河川国道でもタイムラインを持っており、各タイムラインの共有をしながら対応していく必要があると感じている。

～庄内総合支庁建設部長～

今回京田川2箇所でも越水したということで、県の整備部長も現地視察に入りやはり2箇所とも支障木、堆積土砂の影響で越水している。逆に、昨年、一昨年事業を行った箇所は効果ははっきり出ている。そういうこともあって、県と総合支庁一緒になって予算確保をおこなって行きたいので、市長、町長の後押しよろしくお願ひしたい。

～月山ダム～

ダム利用の高度化という点でも、検討を進めていきたいと思っている。自分の反省も含めてだが、1、2ヶ月前はラニーニャで高気圧が横から廻ってくる認識を持っていたのが、今は違って、台風が発生すると東京に向かいまっすぐ北上する、危ない状況だと認識した。常に大きな範囲での気象条件の把握にも努めて、危機管理意識を持たないといけないし、皆様と情報共有が必要だと認識した。

～酒田河川国道事務所長～

・先ほどから支障木伐採の話が出ているが、我々としても伐木の管理計画を定め、少ない予算の中で効率的に実施していきたいと思っている。今回この取り組み方針が出来たわけだが、計画倒れにならないようにしっかり計画的に実践行動していただきたい。先日の台風9号の影響もでているので取り組み方針の中で実施出来るものはすぐ実施していくことで、被害の軽減を図っていく事が重要。引き続き関係機関との連携、ご協力をお願いしたい。